

合流式下水道緊急改善計画 事業評価シート

1. 対象事業	岩見沢市中央地区合流式下水道緊急改善事業																							
2. 実施主体名称	北海道岩見沢市																							
3. 計画期間	平成 17 年度～平成 25 年度																							
4. 対象事業の進捗状況	<p>以下の内容について計画通り実施した。</p> <p>①汚濁負荷量の削減 ・南光園処理場内施設設置(雨天時活性汚泥処理施設・雨水滞水池)、遮集管改造、第1中継ポンプ場改造</p> <p>②公衆衛生上の安全確保 ・遮集管増設、第1中継ポンプ場改築</p> <p>③きょう雑物の削減 ・ろ過スクリーンの設置</p>																							
5. 目標達成状況と達成の見通し	<p>【改善目標】</p> <p>①汚濁負荷量の削減(分流式下水道並の汚濁負荷とすること) → 分流並み目標値 : BOD 放流負荷量 43t/年</p> <p>②公衆衛生上の安全確保(未処理放流水の回数半減) → 目標越流回数 64回/年</p> <p>③きょう雑物の削減(きょう雑物の流出防止) → 3 箇所の雨水吐室全てにスクリーンを設置して、きょう雑物を削減する。</p> <p>【目標に対する達成状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>改善項目</th> <th>評価指標</th> <th>対策前 (平成 17 年度)</th> <th>改善目標 (平成 26 年度)</th> <th>事後評価 (平成 27 年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①汚濁負荷量の削減</td> <td>BOD 放流負荷量</td> <td>93.3t/年</td> <td>43.0t/年 (54%)</td> <td>43.0t/年 (54%)</td> </tr> <tr> <td>②公衆衛生上の安全確保</td> <td>年間越流回数</td> <td>134回/年</td> <td>64回/年</td> <td>64 回/年</td> </tr> <tr> <td>③きょう雑物の削減</td> <td>スクリーン設置箇所数</td> <td>0 箇所</td> <td>3 箇所</td> <td>3 箇所</td> </tr> </tbody> </table>				改善項目	評価指標	対策前 (平成 17 年度)	改善目標 (平成 26 年度)	事後評価 (平成 27 年度)	①汚濁負荷量の削減	BOD 放流負荷量	93.3t/年	43.0t/年 (54%)	43.0t/年 (54%)	②公衆衛生上の安全確保	年間越流回数	134回/年	64回/年	64 回/年	③きょう雑物の削減	スクリーン設置箇所数	0 箇所	3 箇所	3 箇所
改善項目	評価指標	対策前 (平成 17 年度)	改善目標 (平成 26 年度)	事後評価 (平成 27 年度)																				
①汚濁負荷量の削減	BOD 放流負荷量	93.3t/年	43.0t/年 (54%)	43.0t/年 (54%)																				
②公衆衛生上の安全確保	年間越流回数	134回/年	64回/年	64 回/年																				
③きょう雑物の削減	スクリーン設置箇所数	0 箇所	3 箇所	3 箇所																				
6. 対象事業の整備効果の発現状況等	<p>○平成 27 年度のモニタリング調査により、法令で定められている河川放流水質 40mg/l 以下であることを確認した。 (吐口 No3BOD:19, 4mg/l)</p> <p>○雨水吐口(代表:No.3)における放流水質、汚濁負荷量が大きく低減し、水質が改善された。</p>																							
7. 事業の効率化に関する取り組み状況	<p>○合流式下水道改善対策として、維持管理性・実績・経済性等を比較検討し、最も効果が有り、且つ経済的な雨水滞水池+3W法を選定した。</p> <p>○雨水滞水池の容量について、既存施設である流量調整池を兼用することによってコストの縮減が図られた。</p> <p>○夾雑物対策として、SPIRIT21で技術開発された夾雑物除去技術のうち無動力方式を採用しコスト縮減を図った。</p>																							
8. 今後の方針	<p>合流式下水道緊急改善事業として計画した対策が全て完了し、効果確認のため平成 27 年度にモニタリング調査を行い、当初設定した水質目標は達成された状況にある。</p> <p>今後も引き続き整備した施設の適正な維持管理に努め、汚濁負荷量の状況や放流回数等の傾向等を考慮した上で、継続的に水質調査を行い、放流先となる幾春別川、利根別川の水環境の保全に努めていく。</p>																							